

HiKOKI

取扱説明書

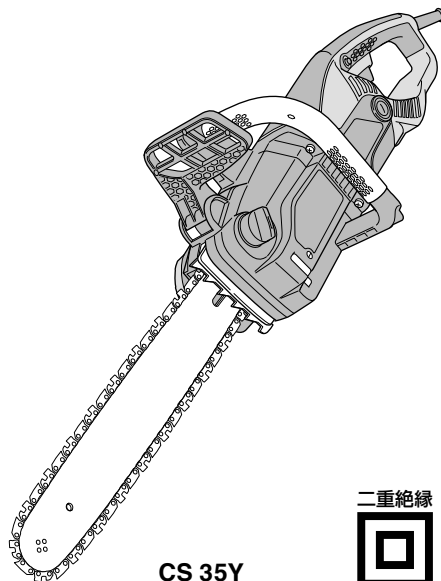
用途

- 木材や丸太の切断
- 庭木の枝打ち、伐採
- ログハウスなどの木工

電気チェーンソー

ブレーキ付 **CS 35Y CS 40Y**

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



CS 35Y

二重絶縁



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

警告表示について	1
電動工具の安全上のご注意	2
二重絶縁について	4
本製品の使用上のご注意	5
各部の名称	9
標準付属品	9
仕様	10
別売部品	10

はじめに

ご使用前の準備	11
ソーチェーンの取付け（交換）	13
ご使用前の点検	15
スイッチの操作について	18
キックバックについて	19
チェンブレーキについて	20
木材を切断する	21
切断作業上のご注意	24
ソーチェーンの目立て	25

使い方

保守・点検	27
保管方法	30
故障診断	30
ご修理のときは	裏表紙

その他

警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、ご使用時の危険回避などを目的に本機および取扱説明書に下記の表示をしております。
これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。



取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意などに従って安全に使用してください。



電源コードが損傷または切断している場合には直ちにプラグをコンセントから抜いてください。



保護メガネ、保護帽（ヘルメット）、手袋、安全靴など保護具を着用してください。



耳栓、イヤマフなど防音保護具を着用してください。



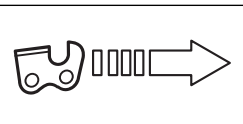
雨の中で使用したり、湿ったまたは濡れた場所で使用しないでください。



チェーンオイル吐出量の調整



チェーンオイル



ソーチェーンの
回転方向

⚠ 危険、⚠ 警告、⚠ 注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ 危険」、「⚠ 警告」、「⚠ 注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 危険 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を即時に負う事が想定される内容のご注意。

⚠ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⚠ 警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

警告

19 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

20 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

21 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。


この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

22 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電源部と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に  マークで表示してあります。異なった部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。

電気系統の分解、組立や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、チェーンソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠危険

高所での枝打ち、枝払い作業について

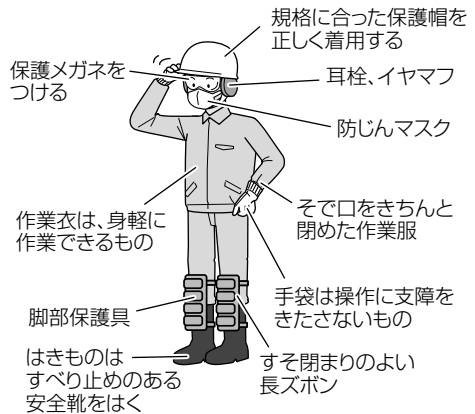
木の上及び高所（2メートルを越える箇所）での作業は、足場が不安定になり非常に危険です。以下の内容を守り、安全に作業してください。

また、作業前に専門の技術指導を受け、十分に訓練した上で作業してください。

- ① 高所作業用機器を使用し、安定した足場を確保すると同時に安全帯（芯入り）を必ず着用し身体をしっかり固定させてください。
- ② はしごを使用しての作業、片手持ち作業、腕を伸ばしてのチェーンソー操作は行わないでください。
作業範囲は作業者の肩から腰の高さとし、それ以外では作業しないでください。

⚠警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。
保護具をつけないで作業すると、飛散物が身体に当たるなどけがの原因になります。
- ③ 作業はゆとりを持って行ってください。また、身体を冷やさないようにしてください。
- ④ 子供や取扱説明書をよく読んでいない人、または取扱いに不慣れな人には工具を使用させたり、貸さないでください。
初めて使用する方は、販売店や熟練者に操作方法、注意事項をよく教わって十分習得し、取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- ⑤ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。
けがの原因になります。
- ⑥ 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候のとき、また落石、雪崩の恐れのある場所では使用しないでください。
悪天候により判断が鈍ったり、振動により災害を引き起こす原因になります。



警告

- ⑦ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。
けがの原因になります。
- ⑧ 夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨の中や雨上がりのぬれた場所では使用しないでください。
足もとが不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。
- ⑨ 始動前にガイドバーやソーチェンを点検してください。
 - ガイドバーやソーチェンにひび割れ、傷、曲がりがある物は使用しないでください。
 - ガイドバーやソーチェンが確実に取付けられているか確認してください。ガイドバーやソーチェンが割れたり、はずれたりすると事故の原因になります。
- ⑩ 作業前にロックオフボタンを押しながらでないと、スイッチが引けないことを確認してください。
故障しているときは使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑪ ソーチェンは、取扱説明書に従って正しく取付けてください。
誤った取付け方をすると、ガイドバーからソーチェンがはずれ、けがの原因になります。
- ⑫ チェンソーに装備されている各種の安全装置（ブレーキレバー、ロックオフボタン、チェンキャッチャーなど）は絶対に取りはずさないでください。
また、改造したり、固定しないでください。
けがの原因になります。
- ⑬ スwitchを入れるときには注意してください。
 - 15 m 以内に人や動物を近づけないでください。
 - ソーチェンが地面、または障害物に接触していないことを確認してください。
不用意な始動は、けがや火災の原因になります。
- ⑭ キックバック防止のため、ガイドバー先端部（特にガイドバーの上部 1/4 の部分）での作業は行わないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
機体がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。
- ⑮ 使用中はフロントハンドルは左手、リアハンドルは右手で確実に保持し、両足を開き安定した姿勢で作業してください。
また、足場の悪い場所で作業するときは、周囲を整備し足場を確保してください。
安定しない姿勢での作業は、けがの原因になります。
- ⑯ 使用中は、ソーチェン、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑰ 電線、ガス管などが設置してある場所では安全に十分注意してください。
- ⑱ 作業は原則として一人で行い、複数で作業するときは十分な間隔を取ってください。
特に、立ち木の伐採や斜面での作業では、木の倒れ、転がり、すべりを予測し、他の作業者に危険がないことを確認してください。
倒れる木に当たるなど、けがの原因になります。

⚠ 警告

- ①9 次の場合はスイッチを切り、ソーチェンの動きが止まるのを確認してください。
- 使用しない、または修理する場合。
 - 作業場所を移動する場合。
 - ソーチェンやガイドバーやチェンケース、その他機体の点検、調整、交換などを行う場合。
 - チェンオイルを補充する場合。
 - 機体に巻き付いたごみを取除く場合。
 - 作業場所の障害物を取除いたり、作業で発生したごみ、切り粉などを運ぶ場合。
 - 機体を身体からはずす場合、機体からはなれる場合。
 - その他、危険を感じた場合、危険が予想される場合。
ソーチェンが動いたままでは、思わぬ事故が起こります。
- ②0 他人を 15 m 以内に近づけないでください。
また、二人以上で作業する場合も、15 m 以上はなれてください。
- 飛散物が当たるなど、思わぬ事故の原因になります。
 - 呼び笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。
- ②1 立ち木を伐採する前に、次のことを実施してください。
- 伐採する前に安全な退避場所を確保する。
 - 邪魔になる障害物（枝、灌木など）をあらかじめ除去する。
 - 伐採する木の状態（幹の曲がり、枝の張りなど）、周囲の状況（隣接する木の状態、障害物の有無、地形、風向きなど）を総合的に判断して立ち木を倒す方向を決めて、伐採の手順を計画する。
不用意な伐採作業は、けがの原因になります。
- ②2 立ち木の伐採中は、次のことを実施してください。
- 作業中は常に木の倒れる方向に注意する。
 - 傾斜地では、木が転がらないことを確認の上、常に山側に立って作業する。
 - 木が倒れ始めたらスイッチを切り周囲に警戒の合図を行い、直ちに安全な場所に退避する。
 - 作業中にソーチェン、ガイドバーが木に挟まれたときはスイッチを切りクサビを使用する。
- ②3 曲げられている枝、かかり木、裂けている木などは切断終了時の跳ね返りに注意してください。
できる限り十分な訓練と経験を積んだ専門者に依頼してください。
- ②4 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ②5 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
- ②6 機体を車で運搬する場合は、機体が動かないように固定してください。
事故の原因になります。

⚠ 警告

②7 〔事業者の方へ〕

立木の伐採、かかり木の処理または造材の業務は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

詳しくは、各都道府県の林業・木材製造業労働災害防止協会等にお問い合わせください。

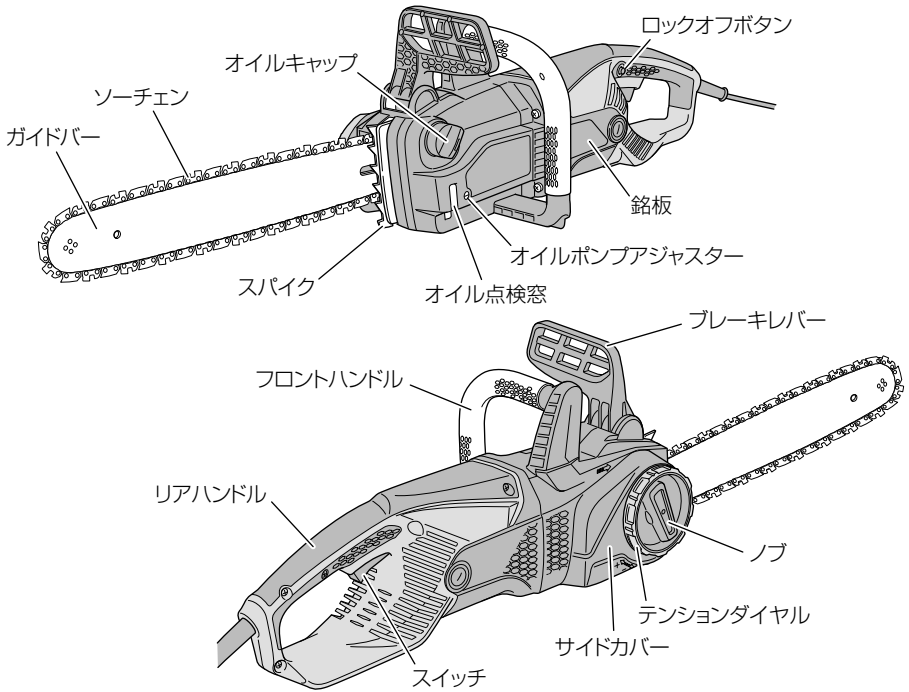
関連法令	労働安全衛生法	第59条
	労働安全衛生規則	第36条第8号および第8号の2
	安全衛生特別教育規程	第10条

⚠ 注意

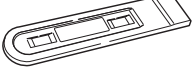



- ① 使用しないときは、ガイドバーにチェンケースをし、ソーチェンがむき出しにならないようにして、お子様の手の届かないところに保管してください。けがの原因になります。
- ② チェンケースを付けたまま、スイッチを入れしないでください。けがの原因になります。
- ③ 材料に釘などの異物がないことを確かめてください。ソーチェンが釘などに当たると、けがの原因になります。
- ④ 切り落とし寸前や切断中に材料の重みで、ガイドバーが材料にはさみ込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。ガイドバーがはさみつけられると、けがの原因になります。
- ⑤ 使用後に機体を運搬したり、保管する場合は、ソーチェンはずすか、チェンカバーをかぶせてください。ソーチェンが身体に触れて、けがの原因になります。
- ⑥ 機体は注意深く手入れしてください。
 - 安全に効率よく作業していただくために、ソーチェンは常に手入れし、よく切れる状態にしてください。
 - ソーチェンやガイドバーの交換、機体の手入れ、注油などは取扱説明書に従ってください。
- ⑦ 修理は専門店で依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。
- ⑧ 使用しない場合は、きちんと保管してください。チェンオイルを抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。
- ⑨ 警告ラベルが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告ラベルと取換えてください。警告ラベルはお買い求めの販売店に依頼してください。
- ⑩ 作業に当たって、その地域の規則や取り決めがある場合はそれに従ってください。

各部の名称

工具本体



標準付属品

品名	形名	CS 35Y	CS 40Y
チェンケース		1 個	1 個
ガイドバー		【350 mm (14 インチ)】 1 個	【400 mm (16 インチ)】 1 個
ソーチェン		1 個	1 個
チェンオイル (50 mL)		2 個	2 個

仕様

形名	CS 35Y	CS 40Y
使用電源	単相交流 50 / 60 Hz 共用 電圧 100 V	
ソーチェーン	91PX-52 (オレゴン製)	91PX-57 (オレゴン製)
バーサイズ (最大切断長さ)	350 mm	400 mm
無負荷チェーンスピード	14.5 m/s	
全負荷電流	15 A	
消費電力	1,430 W	
モーター	単相直巻整流子モーター	
寸法 (全長×全幅×全高)	490 mm × 217 mm × 220 mm	
質量 (コードを除く)	5.4 kg	5.5 kg
コード	2心キャブタイヤケーブル 5 m	
オイルタンク容量	150 mL	
チェーンオイル給油方式	自動給油	
チェーンオイル使用オイル	弊社チェーンソー用オイル または 市販のチェーンオイル	
チェーンオイル吐出量	0 ~ 15 mL / 分 (14.5 m/s)	
振動3軸合成値 ^{*1}	4.0 m/s ² ^{*2}	

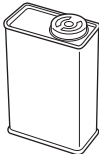
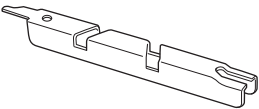

※ 1: 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会] ウェブサイト：<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html> をご参照ください。

※ 2: 振動 3 軸合成値は、EN60745-2-13 規格に基づき測定しています。

別売部品

販売店でお求めください。

(別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

チェーンソー用オイル (1000 mL)	デブスゲージジョインター	丸ヤスリ
		

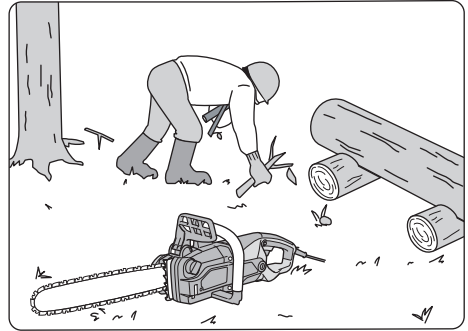
ご使用前の準備

●作業場所の整備

作業場所および周辺的环境をよく観察し、けがや事故、故障の原因になると予想できる物が作業場所にはないか確認し、ある場合には、あらかじめ取除いてください。

特に、作業時足場となる部分については、不安定であったり、つまずいて転んだりする物がないように整備してください。

立ち木の伐採作業を行うときは、倒れる方向、転がる方向にも細心の注意を払い、自分自身の避難場所・経路もあらかじめ決めて整備しておいてください。



○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●使用電源の確認

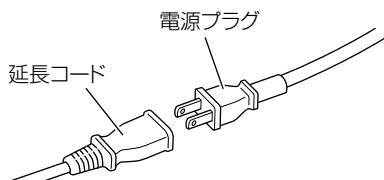
必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。

また、直流電源、エンジン発電機、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

●延長コードを使う場合

本製品のコード長さは 5 m です。電源の位置がはなれていて延長コードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、延長コードは、電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。



⚠ 警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm ²)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

●コンセントの確認

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。

お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

ソーチェンの取付け（交換）

⚠ 警告

万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

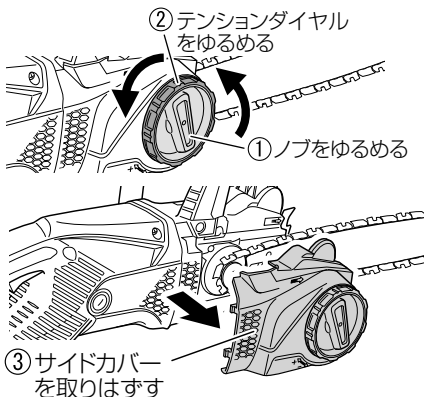
⚠ 警告

手袋を着用し、ソーチェンだけがをしないよう注意してください。

1

サイドカバーを取りはずす

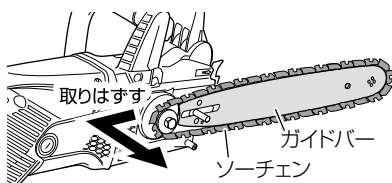
- ① ノブを1回転させて、ゆるめます。
- ② テンションダイヤルを半回転させてゆるめます。
- ③ ノブを回して、サイドカバーを取りはずします。



2

ソーチェン、ガイドバーを取りはずす

ソーチェンとガイドバーを矢印の方向に取りはずします。



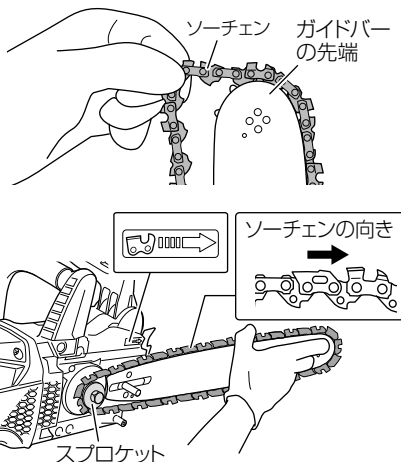
注

- ソーチェンの取りはずしの際には、オイル吐出口、オイル穴、ガイドバー溝およびその周辺の切粉を取除いてください。(P.28 参照)
切粉などがたまっていると故障の原因になります。
- ソーチェンは仕様に明記してある正しいタイプのものを使用してください。
誤ったタイプを取付けるとガイドバーからソーチェンがはずれ、けがの原因になります。

3

新しいソーチェンをスプロケットにかみ合わせる

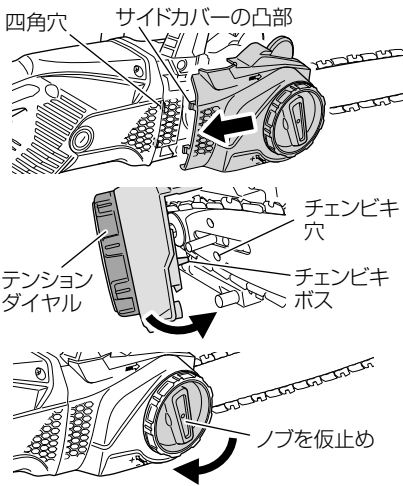
ガイドバーの先端に、ソーチェンの向きに注意してはめ込んだ後、ソーチェンをスプロケットに正しくかみ合わせます。



4

サイドカバーを取付ける

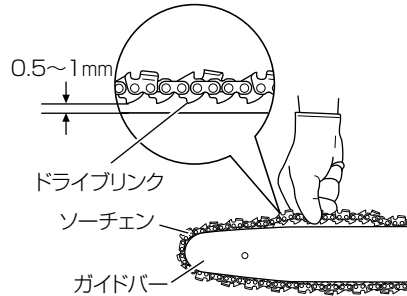
- ① サイドカバーの凸部を、本体の四角穴にさし込みます。
- ② サイドカバーのチェンビキボスを、ガイドバーのチェンビキ穴に入るようにテンションダイヤルを調整して、サイドカバーを取りつけます。
- ③ ノブを一回転させて、仮止めします。



6

ソーチェンの張りを確かめる

ソーチェンの張りは、ガイドバーの中央付近でソーチェンを軽く持ち上げたとき、ソーチェンのドライブリンクとガイドバーのすき間が0.5～1mm程度となるように調整します。



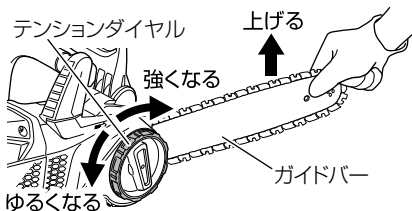
警告

調整後、ノブが十分締まっていることを確認してください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。

5

ソーチェンの張りを調整する

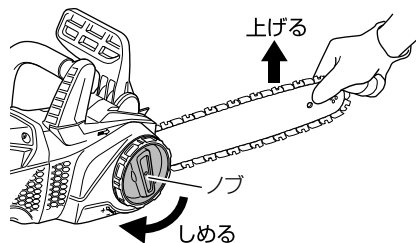
- ガイドバーの先端を持ち上げながら、テンションダイヤルを回し、ソーチェンの張り調整します。
- テンションダイヤルを右に回すとソーチェンの張りは強くなり、左へ回すとゆるくなります。



7

ノブを締める

調整が終了したら、ガイドバーを上を持ち上げて、ノブを十分締付けてください。



ご使用前の点検

⚠ 警告

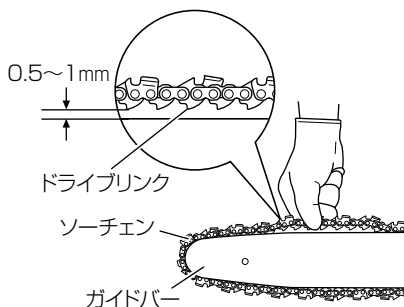
- 万一の事故を防止するため、手順 ①～④ については、必ず電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。
- ロックオフボタンを押し込んだ状態で固定しないでください。
誤ってスイッチを引いたとき、不意に動き出しけがの原因になります。

1 スイッチが切れていることを確かめる

- スイッチが入っているの知らずに電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。
- スイッチはロックオフボタンを押しながら引くと入り、はなすと切れません。

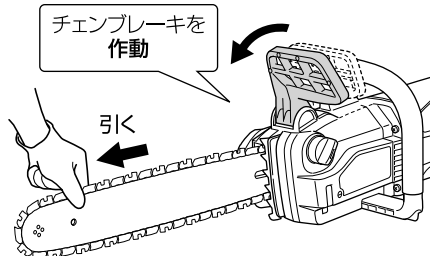
2 ソーチェンの張り具合を確かめる

- ソーチェンが適切に張られていないと、ソーチェンやガイドバーを傷め、故障の原因になります。P.13「ソーチェンの取付け(交換)」の⑤～⑦をご覧ください。適切に張られていることを確かめてください。
- ソーチェンが新しい間は、特に伸びやすいので、ときどき張り具合を点検し、調整してください。
- ノブの締付けも点検してください。



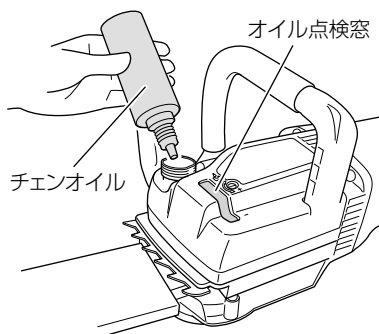
3 チェンブレーキの作動を確かめる

ブレーキレバーを作動状態にしてソーチェンを手で(厚手の手袋着用)引っ張ってみます。
ソーチェンが動かないことを確認してください。
(P.20「チェンブレーキについて」)



4 チェンオイルを確認する

- 本機はチェンオイルを入れないで出荷しています。ご使用前に必ず、オイルタンクに付属のチェンオイルを入れてください。
- 付属のチェンオイルがなくなりましたら、別売部品の弊社チェーン用オイルまたは市販のチェンオイルを使用してください。
- 作業中もオイル点検窓から時々確認して、少なくなったら補充してください。



注 ●チェンオイルは、余分に買い置きしておくことをおすすめします。

チェンオイルがない状態で作業を続けると、ソーチェーンの焼き付きや、モーター故障の原因になります。

●オイルタンクにごみなどが入らないように気をつけてください。

ごみなどの異物が入ると、故障の原因になります。

●本機は構造上、タンクに残ったチェンオイルが漏れることがあります。故障ではありませんが、保管場所が汚れることがありますので、ご注意ください。

保管するときは、オイルタンク内のオイルを抜いて空にし、本体の下にはオイルが付いてもよい物を敷いてください。

5 ブレーキがかかることを確かめる

- この本体は、ロックオフボタンを押しながらスイッチを引くとスイッチが入り、はなすと切れます。
- また、スイッチをはなすと1～3秒後にソーチェーンの回転にブレーキがかかる構造になっています。
- ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。(P.18「スイッチの操作について」参照)

⚠️ 注意

ブレーキが働くときの反発力に注意してください。

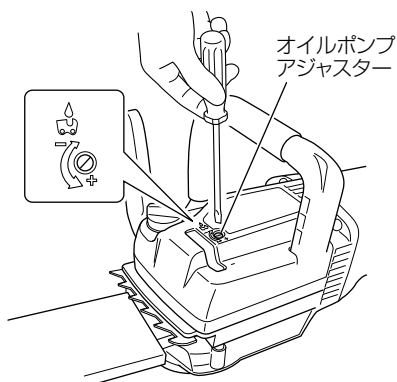
本体を落としたりし、けがの原因になります。

6

チェーンオイルの吐出を 確かめる

- スイッチを入れるとソーチェーン、ガイドバーに自動的にチェーンオイルが給油されます。
- 自動給油の吐出量は工場出荷時、最大吐出量に調整されています。

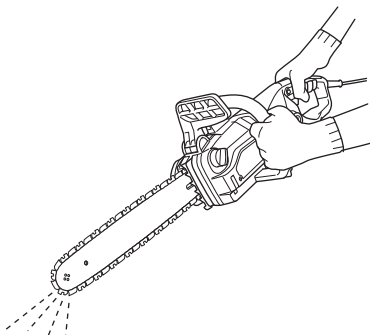
吐出量を減らすときは、オイルポンプアジャスターを時計方向に回してください。



- 2～3分回転させてもオイルが出ない場合には、オイルの吐出口回りに切粉がたまっていないか確認してください。

(P.28 「チェーンオイル吐出口の清掃」参照)

(P.16 ④ 「チェーンオイルを確認する」参照)



スイッチの操作について

ロックオフボタンを押しながらスイッチを引くと、ソーチェンが回転します。

ロックオフボタンを押さない状態では、スイッチが引けない構造になっております。

スイッチが入った後は、スイッチを引いているかぎり、ソーチェンは回転を続けます。

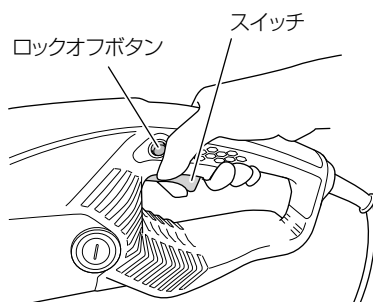
スイッチをはなすと、ソーチェンの回転にブレーキがかかり停止します。

注 スイッチを入れたとき、ソフトスタートがはたらき、ソーチェンの回転がゆっくり上がっていきます。作業は回転が上がりきってから行ってください。

警告

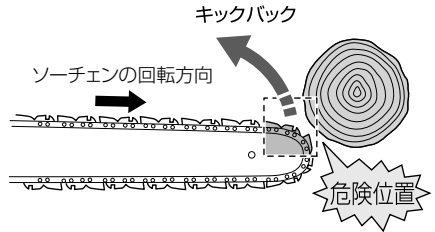
ロックオフボタンを押し込んだ状態で固定しないでください。

誤ってスイッチを引いたとき不意に動き出し、けがの原因になります。

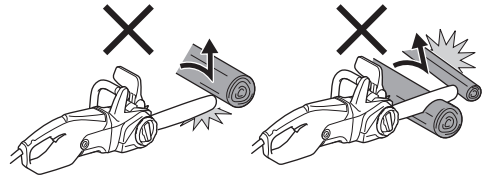


キックバックについて

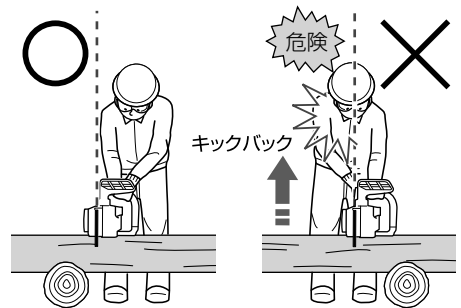
ガイドバー先端部の上半分が木材に触れると、ソーチェンの回転でガイドバー先端部が木材を駆け上がる力が働き、作業者の上半身に向かって跳ね返すキックバックが発生します。



ガイドバーの先端が切落とす枝の後ろにある丸太や小灌木にぶつかってキックバックを起こすことがあります。裏側にそのような物がないかよく確認してから作業をしてください。



万一キックバックが発生しても、危険性を最小限にするため、左手でフロントハンドル、右手でリアハンドルを持って作業してください。身体の芯（頭部）に跳ね返ることが避けやすくなります。



チェンブレイキについて

⚠ 警告

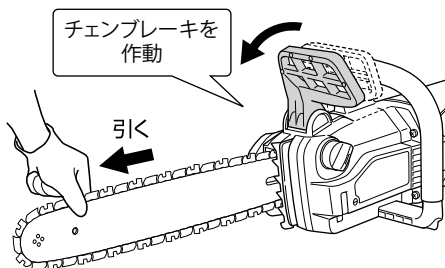
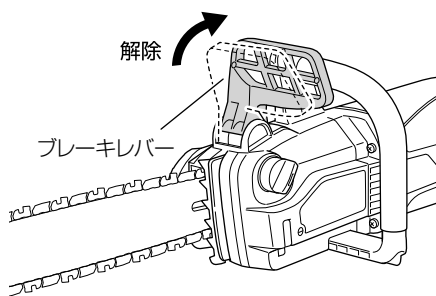
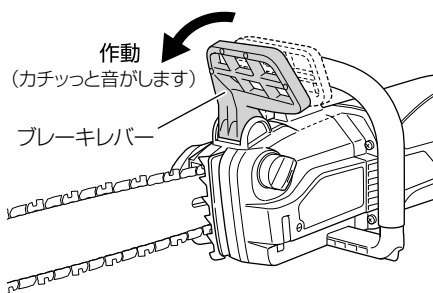
- チェンブレイキは緊急時の停止装置ですが万全ではありません。常にキックバックが発生しないように注意しながら作業してください。
- チェンブレイキはのこ屑などが詰まって動きが悪くならないように、こまめに手入れしてください。
- チェンブレイキは、安全にご使用していただくための重要な装置です。むやみに使用しないでください。また、常に点検をしてください。ブレイキの作動が不確実なときは、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

チェンブレイキはキックバックなどが発生したとき、緊急にソーチェンの動きを停止し、危険を少なくするための装置です。(P.19「キックバックについて」参照)

ブレイキレバーを前方に押しとチェンブレイキが作動してソーチェンが動かなくなります。ブレイキレバーを手前に引けば解除されます。

チェンブレイキの作動確認をするときは、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、ブレイキレバーを作動状態にしてソーチェンを手で引っ張ってみます。ソーチェンが動かなければチェンブレイキが作動しています。

注 必ず厚手の手袋を着用してください。ソーチェンは非常に鋭い刃になっているので、無理に引くと指をけがします。

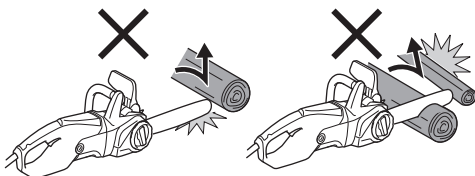


木材を切断する

- 切り方の基本
- 枝落とし
- 玉切り
- 伐採作業

⚠ 警告

- チェンソーを使用するときは、必ず両手でしっかり持って使用してください。片手では絶対に使用しないでください。
- 使用中は、ソーチェン、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
- 木材の下側から切込みを入れる場合、ソーチェンを木材に強く当てないでください。機体が押し戻され、けがの原因になります。
- チェンソーの回転が大幅に低下するような無理な使い方はしないでください。
- ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
機体が押し戻され、けがの原因になります。
- 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切ってください。
- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。



⚠ 注意

- 使用中、コードを切断しないように注意してください。
- 材料は、確実に固定してください。また、切り落とし材に十分注意してください。
- スイッチを入れるとき、ソーチェンが材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
- 使用中、ソーチェンが別の材料や他のものに触れないように注意してください。特に、切終わりのとき、地面に接触しないよう注意してください。

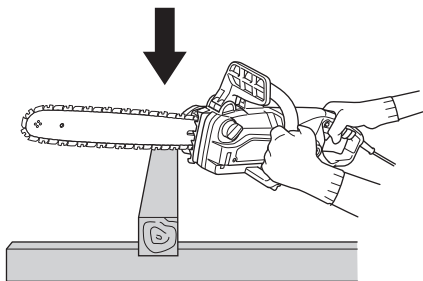
●切り方の基本

切断時本体を無理に押しつけても早く切れません。モーターに無理をかけ、能力も悪くなるばかりか、モーターやソーチェン、ガイドバーを傷め故障の原因となります。ソーチェンに速度が落ちない範囲で使用してください。

とくに、ソーチェンが止まる(ロックする)ような使い方はけがや故障の原因になります。

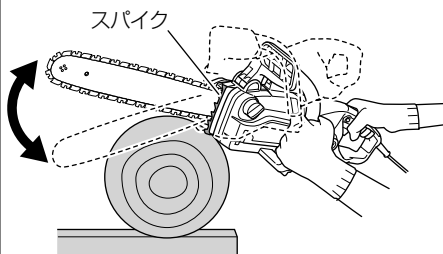
細い木材の切断

ガイドバーのつけ根付近を木材に軽く押しつけて切断します。



太い木材の切断

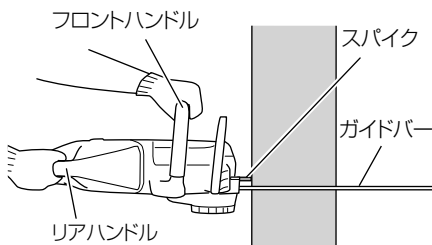
機体の前部についているスパイクを切断する木材に当て、このスパイクを支点として、テコ運動をしながら切断します。



木材を水平に切断

ガイドバーが下側になるよう機体を右側に倒した状態で、フロントハンドルの上側を左手で持ちます。

スパイクを使用する場合は、ガイドバーを水平にして機体の前部についているスパイクを木材に当て、このスパイクを支点としてリアハンドルを右に回すようにして切込みます。

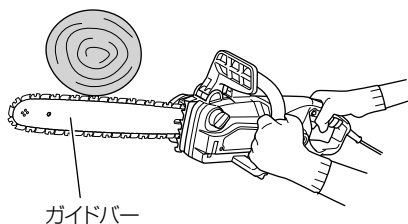


木材の下側に切込みを入れる

ガイドバーの上側を木材に軽く当てます。

ガイドバー先端部での切断はしないでください。キックバックによるけがの原因になります。

(P.19「キックバックについて」)参照)



● 枝落としと玉切り

⚠ 警告

傾斜地で作業する場合は、必ず、木材の上方で作業してください。

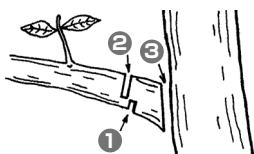
⚠ 注意

切断の際に、ガイドバーがはさまれないように注意してください。

立ち木の枝落とし

太い枝は、まずつけ根から少しはなれたところを切落とします。

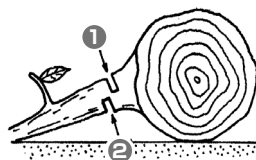
- ① 下側から3分の1くらい切込み、
 - ② 上側から切落とします。
- 必要に応じて最後に、残りの部分を
- ③ つけ根から切落としてください。



たおれた木の枝落とし

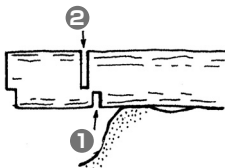
地面に当たっていない枝から切落とし、その後地面に当たっている枝を切ります。

地面に接触している太い枝は、① 上側から半分くらい切込み、② 下側から切込み、枝を落とします。



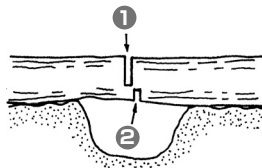
先端部分の切断

- ① 下側から3分の1くらい切込み、
- ② 上側から切落としてください。



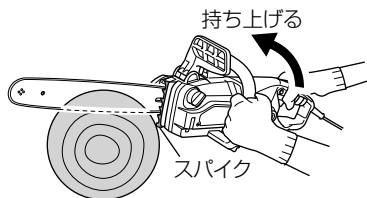
くぼみを利用した切断

- ① 下側から3分の2くらい切込み、
- ② 下側から切通してください。



横たわっている木材の切断

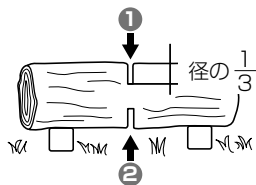
木材の安定に注意してください。スパイクを木材に当て、このスパイクを支点としてハンドルを持ち上げるようにして切ると楽に作業できます。



木材が両端で支えられている場合

- ① 上側から3分の1くらい切込み、
- ② 下側から切通してください。

上側からだけで切断しようとすると、切り口にガイドバーがはさまれることがあります。



● 立ち木の伐採作業

⚠ 警告

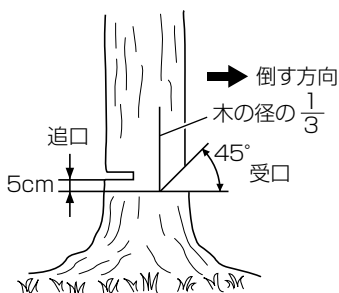
木が倒れる方向をよく確認してから、退避場所へ退避してください。

⚠ 注意

- 切断の際に、ガイドバーがはさまれないように注意してください。
- 傾斜地で作業する場合は、木の倒れる方向に注意してください。

立ち木の伐採

- ① 木の形状や周囲の状況を考慮し、木を倒す方向を決めます。
- ② 木のまわりの障害物を取除くと同時に安全な退避場所を決めておきます。
- ③ はじめに倒そうとする側に受口を切込みます。受口は木の直径 $1/3$ くらいが適当です。
- ④ 受口の反対側で受口の下面より 5 cm 程度高い位置より追口を切込みます。
- ⑤ 木が倒れはじめたら、スイッチを切り、あらかじめ決めておいた退避場所へ退避します。



切断作業上のご注意

● 保護回路について

本機は機体の損傷を防ぐための保護回路を内蔵しています。

硬い木材などを無理に切断した場合など、機体に大きな負荷が加わったときには、モーターの回転を自動で停止します。

この場合は、いったんスイッチを切って、停止した原因を確認し、完全に取除いてから再びスイッチを入れて作業を行ってください。

なお、自動停止した場合は、スイッチを切って2秒以上おいてからスイッチを入れてください。

● チェンソーの保持と押しつけ力について

チェンソーは確実に保持してください。

また、チェンソーは必要以上に押しつけないでください。切断時、チェンソーを無理に押しつけても早く切れません。モーターに無理をかけ、能力も悪くなるばかりか、モーターやガイドバーを傷め故障の原因となります。

ソーチェンに速度が落ちない範囲で使用してください。

とくに、ソーチェンが止まる（ロックする）ような使い方は、けがや故障の原因になります。

ソーチェンの目立て

ソーチェンの切れ味が悪くなると、モーターや機体の各部に無理をかけ、能率も悪くなります。

本機的能力を発揮するためには、ソーチェンをまめに手入れし、切れ味の良い状態にしておく必要があります。

警告

万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

またソーチェンを取扱うときは、必ず厚手の手袋を着用してください。

注 目立ておよびデブスゲージの調整は、ソーチェンを機体に取り付けたまま、ガイドバーの中央部で行ってください。

●目立て

ソーチェンの目立ては丸ヤスリと平ヤスリを使用します。

丸ヤスリはカッター部の研削に、平ヤスリはデブスゲージの研削に使用します。

丸ヤスリは直径 4 mm (別売部品)を使用します。

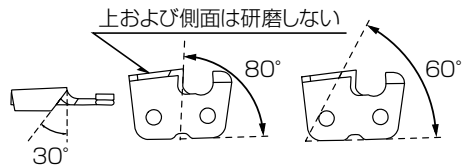
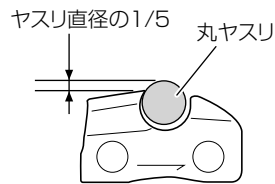
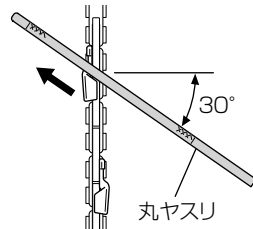
カッター部の研削は丸ヤスリの直径の1/5を上部に出して行います。

上刃目立て角は 30° です。丸ヤスリのグリップ側を前方に軽く押し出すように研削します。

手前に戻すときは、丸ヤスリがソーチェンに触れないようにしてください。

左右のカッターが均等になるようにヤスリをかけてください。

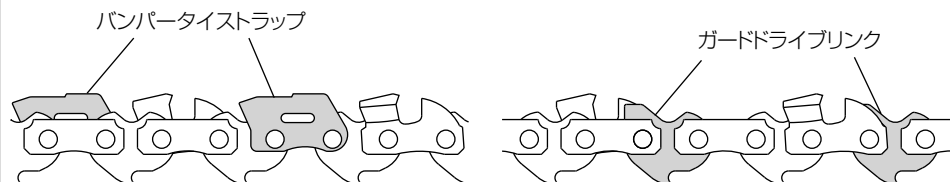
すべてのソーチェンの角度がそろっていないと、曲って切れることがありますので注意してください。



● デブスゲージの調整

⚠ 警告

- バンパータイストラップ、ガードドライブリンクの上部にヤスリをかけたり、変形させたりしないでください。
- デブスゲージの調整は、指定の寸法、形状にしてください。
キックバックの危険性を高め、けがの原因になります。



デブスゲージはカッターが木材にくい込む深さを調整する役割をしますので、デブスゲージを全部一定にそろえることが大切です。

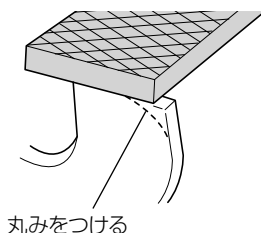
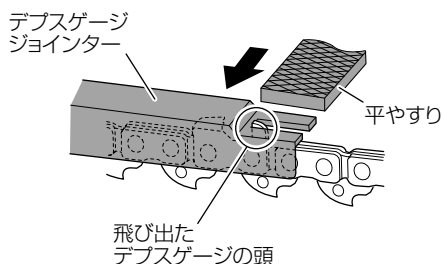
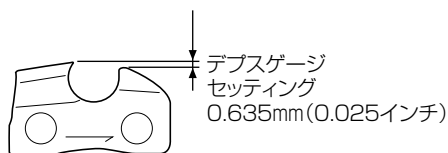
刃の目立て2～3回に1回は、必ずデブスゲージをチェックしてください。

デブスゲージジョインターをソーチェンの上にのせ、溝の部分からデブスゲージをのぞかせ、デブスゲージジョインターから出ている部分を平ヤスリですり落としてください。(デブスゲージジョインター、平ヤスリは別売品です)

デブスゲージをすり落としたら、必ずデブスゲージの前側をもとのように丸みをつけてください。

ソーチェンの目立てが終わったら、チェーンオイルの中に浸してヤスリ粉を洗い落としてください。

ヤスリ粉がつまったまま使用すると、ソーチェンやガイドバーが早く磨耗します。



保守・点検

⚠ 警告

点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

⚠ 注意

手袋を着用し、ソーチェンだけがをしないよう注意してください。

● ソーチェンの点検

- ときどきソーチェンを点検し、異常がある場合は、P.13「ソーチェンの取付け（交換）」に従い、新品と交換してください。
- ソーチェンの張りを点検し、正しく張られていない場合は、P.14の⑤からの手順で調整してください。
- 切れ味が悪くなったらそのまま使用せず、P.25の「ソーチェンの目立て」を参照し、目立てをしてください。
- ご使用後はさび止めのため、ガイドバーとソーチェンに十分チェーンオイルを回してください。

● 取付ねじの点検

工具本体のねじがゆるんでいないか、点検してください。
ゆるんでいたら、締直してください。

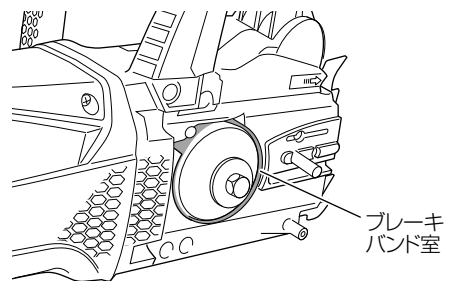
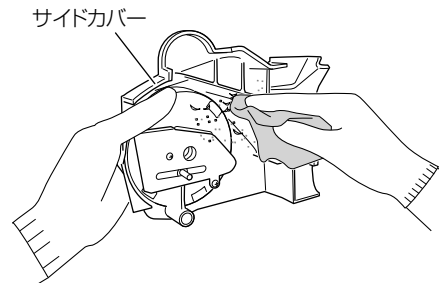
● お手入れする

工具本体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

● サイドカバーおよびブレーキバンド室の掃除

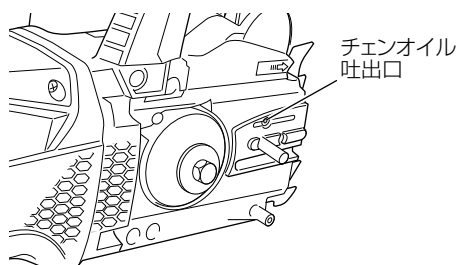
注 サイドカバー、ブレーキバンド室、チェーンオイル吐出口、ガイドバーの掃除は、P.13「ソーチェンの取付け（交換）」の手順に従い、ソーチェンを取りはずして行ってください。

中にたまった木屑を除去して掃除してください。



● チェンオイル吐出口の掃除

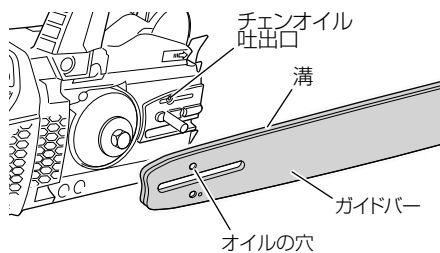
チェンオイル吐出口は、サイドカバー、ガイドバーを取りはずし、掃除してください。



● ガイドバーの掃除

ガイドバーの溝やオイルの出る穴に切粉などが詰まると、オイルが回らなくなり故障の原因になります。

使用後およびソーチェンの交換時などにはガイドバーをはずし、溝などに入った切粉を取除いてください。(P.13「ソーチェンの取付け(交換)」参照)



● モーター部の取扱について

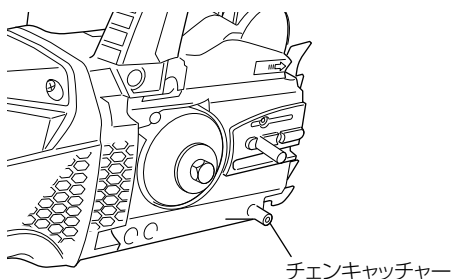
モーター部 (P.9「各部の名称」参照) の巻線は工具本体の重要な部分です。巻線にキズ、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

注 ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

● チェンキャッチャーの点検

チェンキャッチャーはソーチェンがはずれたり、切れたりした場合、ソーチェンが作業者の身体に当たることを極力防ぐためのものです。

チェンキャッチャーが破損していないか、点検してください。

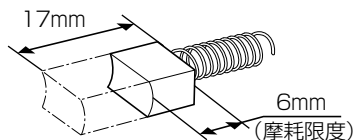


●カーボンブラシの点検と交換方法

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(6mm ぐらい)になりましたら新品と交換してください。

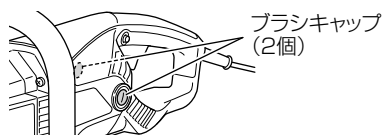
また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシチューブ内で自由にすべるようにしてください。

注 新品のカーボンブラシと交換の際は必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。



1 ブラシキャップをはずす

マイナスドライバーなどで反時計方向に回して取りはずします。



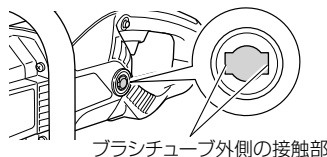
2 カーボンブラシを取出す

カーボンブラシのツバをマイナスドライバーなどで図のように引っかけて、取出します。



3 新しいカーボンブラシを取付ける

図のようにカーボンブラシのツメをブラシチューブ外側の接触部と一致するように方向を定め、指で押し込みます。



注 カーボンブラシのツメは、必ずブラシチューブ外側の接触部に挿入してください。(ツメは2カ所あるうちのどちらでも良い)。間違えるとカーボンブラシのツメが変形し、モーターの早期故障の原因になります。

4 ブラシキャップを取付ける

ブラシキャップでカーボンブラシを押さえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

保管方法

- 各部を十分に清掃し金属部にはさびないように防錆剤を薄く塗ってください。
- 長期間(1ヶ月以上)保管するときは、チェーンオイルを抜き取ってください。
- 損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- ほこり、湿気のない乾燥した、また温度が50℃以上にならない場所に保管してください。
- チェンソーを移動、保管する場合は安全のため、必ず付属のチェンケースを取付けてください。

- 注**
- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - 軒先など雨が降ったり、湿気のある場所には保管しない。
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所には保管しない。
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。
 - チェンオイルが漏れることがありますのでオイルを抜いて空にし、本体の下にはオイルが付いてもよい物を敷いてください。

故障診断

「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状 況	原 因	対 策
ソーチェーンが ・動かない ・動きが悪い	チェンブレーキが作動している	ブレーキレバーを手前に引いて解除してください。
	ソーチェーンの張りがきつい	ソーチェーンの張り具合を確認して、きつい場合は、張りをゆるめてください。
	ソーチェーンがスプロケットからはずれている	サイドケースをはずして、スプロケットにソーチェーンが正しくセットされているか確認してください。
	サイドケース内に… →切粉がつまっている →異物が引っ掛かっている	サイドケースをはずして、チェンカバー内を清掃してください。
	ガイドバーの溝に… →切粉がつまっている →油が回らない	ガイドバーの溝やオイル穴を清掃してください。オイルタンクにオイルが入っているか確認して、なくなっていたら補充してください。
切れ味が悪い	ソーチェーンが… →摩耗、刃こぼれしている →さびている	ソーチェーンを目立てしてください。摩耗、刃こぼれがひどいときは、新しいソーチェーンと交換してください。
	ソーチェーンの向きが逆になっている	正しい向きに付け直してください。
	ソーチェーンの張りがゆるい	ソーチェーンの張りを確認して、ゆるい場合は張りを強めてください。
チェーンオイルが ・出が悪い ・出ない (焼付きを起こす)	オイルタンク内にチェーンオイルが少ない	チェーンオイルを入れてください。
	チェーンオイル吐出口がつまっている	掃除してください。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>